

『ユニオンファンド』

商品分類（追加型投信／内外／株式）

交付運用報告書

第10期（決算日2018年10月1日）

作成対象期間：2017年10月3日～2018年10月1日

受益者のみなさまへ…

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび「ユニオンファンド」は、第10期決算を迎えることができました。ここに期中の運用状況等についてご報告申し上げます。

当ファンドは、2008年のリーマンショックの荒波の中で運用をスタートしました。その後もギリシャショック、ユーロ危機、チャイナショックなど世界的に大きな危機が何度か起こりましたが、そのたびにこれを乗り越え今日に至っています。

ひとえに、当ファンドを信じてお金を託していただいているお客様と、危機をたくましく克服してきた世界の企業のお蔭です。

これからも予想外の事態は何度も起こるでしょう。しかし、これまで同様、「よりよい社会にしたい」という人間の強い願いと行動によって、危機を乗り越え成長が続いていくものと確信しています。

皆様からお預かりした大切なご資金は、選り抜いたファンドを通じて世界中の選り抜かれた企業に投資しています。今後も皆様の資産形成のお役に立てるよう邁進してまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

あなたと大切な方の未来のために

ユニオン投信 Union Asset Management

〒390-0815

長野県松本市深志一丁目1番21号

中田歯科ビル5F

第10期末（2018年10月1日）	
基準価額	24,929円
純資産総額	6,483百万円
第10期（2017年10月3日～2018年10月1日）	
騰落率	△0.2%
分配金合計	0円

※基準価額は、1万口当たりで表示しています。

※純資産総額は、単位未満切捨てで表示しています。

※騰落率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

- ◎ 交付運用報告書は、運用報告書（全体版）に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。
- ◎ 当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供する旨を定めています。運用報告書（全体版）は、下記のホームページの「運用状況」から閲覧およびダウンロードすることができます。
- ◎ 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付を請求される方は、下記お問い合わせ先までお問い合わせください。

本書の記載内容等に関するお問い合わせ先

ユニオン投信株式会社 業務管理部

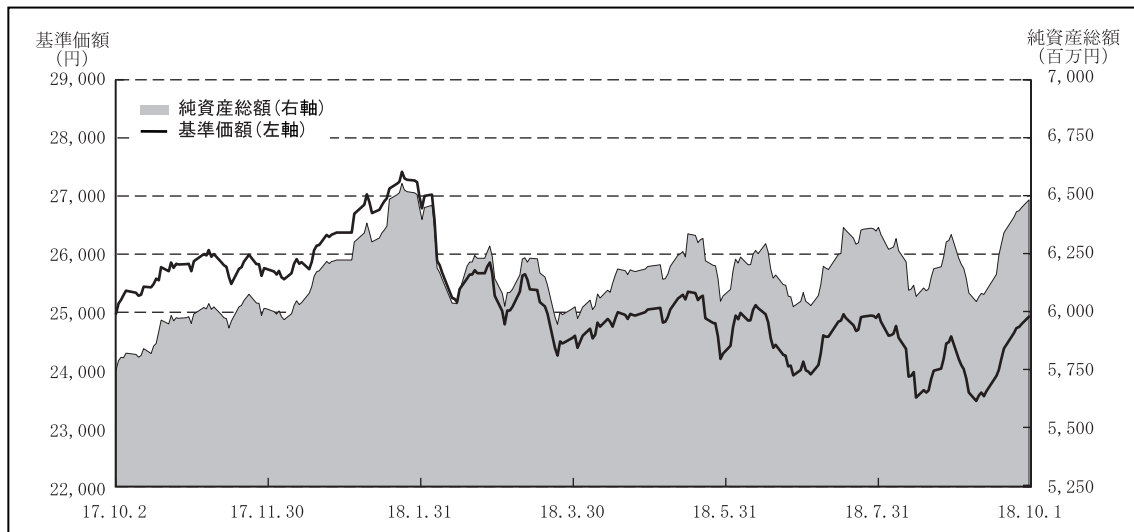
電話番号：0263-38-0725

受付時間：午前9時～午後5時

（土日祝日、年末年始を除きます。）

ホームページ：http://www.unionam.co.jp/

■基準価額等の推移（2017年10月2日～2018年10月1日）



第10期首：24,971円

第10期末：24,929円

(既払分配金：0円)

騰落率：△0.2%

(注1) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。基準価額がファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

(注3) 騰落率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

■基準価額の主な変動要因（第10期：2017年10月3日～2018年10月1日）

当期の世界の株価は、前期の好調な流れを引き継ぎ、2018年1月にかけて多くの市場で上昇が続きました。しかし、2～3月にやや大きく反落し、その後は地域別の好不調が大きく分かれる展開となりました。米国株は期末に向けて最高値を更新する動きとなった一方で、他の市場は横ばいから軟調な推移にとどまりました。

為替市場は、前半がドル安、後半はドル高と変動したものの、期末はほぼ前期末と同水準で終わりました。ただ、一部の新興国通貨は後半に大きく売られる展開となりました。

当期のユニオンファンドの騰落率は小幅マイナスに終わりました。その要因は、第1に、好調だった米国株の組入比率が低めで、逆に軟調だった欧州や新興国株の比率が高かったことです。特に3月以降、欧州株は横ばい、新興国株は下落基調となったことがマイナスに働きました。

第2は、組入比率が高いコムジェストEMFとハリスFがともに市場の動きに劣後し、値下がりしたことです。このうちコムジェストEMFは、同ファンドが数多く保有している質の高い成長企業の株価が、相場の軟調場面で市場全体に対して弱い動きになるという、かなり異例の展開となったことと、株式を多めに保有しているブラジルと南アフリカの通貨安が影響しました。また、ハリスFは、欧州株の比率が米国株より相対的に高めであったことに加え、3月以降、利益水準から見て割安と思われる企業の株価が大きく低迷したことが影響しました。

(注) 当交付運用報告書では、組入ファンドの名称を以下のとおり省略して記載することがあります。

- ・「さわかみファンド」：さわかみF
- ・「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ」：キャピタルF
- ・「ALAMCO ハリス グローバル バリューストック株ファンド 2007 (適格機関投資家専用)」：ハリスF
- ・「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA (適格機関投資家限定)」および「コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90 (適格機関投資家限定)」：コムジェストEUF
- ・「ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA (適格機関投資家限定)」および「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95 (適格機関投資家限定)」：コムジェストEMF

■ 1万口当たりの費用明細 (第10期：2017年10月3日～2018年10月1日)

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	218 (136) (74) (8)	0.864 (0.540) (0.292) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	3 (3)	0.010 (0.010)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 (各月末の残存受益権口数の単純平均) 金銭信託にかかる手数料等
合計	221	0.874	
期中の平均基準価額は、25,224円です。			

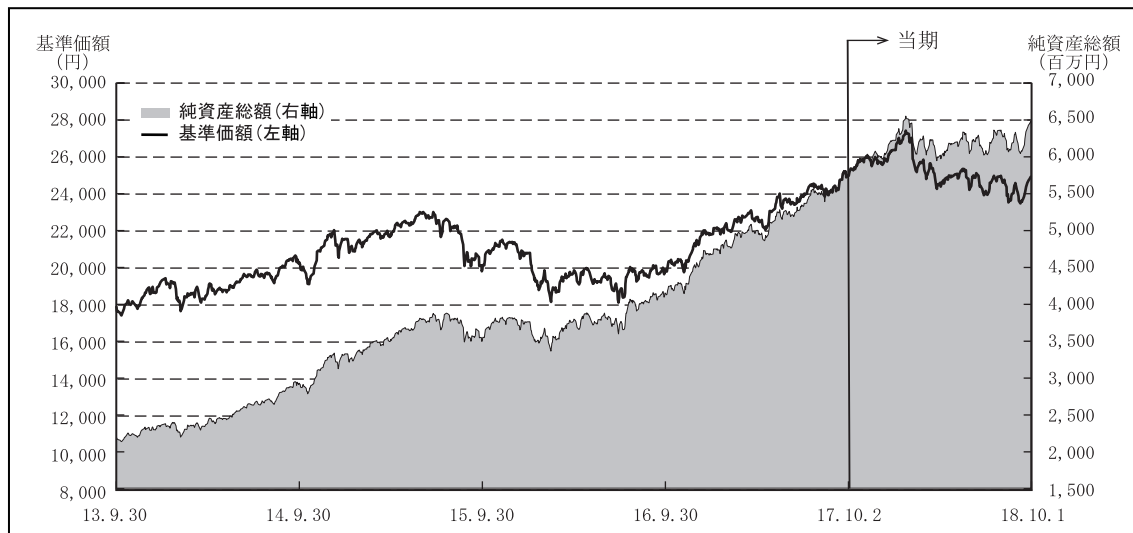
(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期間における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては、「組入ファンドの概要」に表示しています。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額 (各月末の基準価額の単純平均) で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

■最近5年間の基準価額等の推移（2013年9月30日～2018年10月1日）



	2013年9月30日 決算日	2014年9月30日 決算日	2015年9月30日 決算日	2016年9月30日 決算日	2017年10月2日 決算日	2018年10月1日 決算日
基準価額 (円)	17,852	20,291	19,779	19,893	24,971	24,929
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	13.7	△2.5	0.6	25.5	△0.2
純資産総額 (百万円)	2,193	2,926	3,492	4,151	5,751	6,483

(注1) 比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。

(注3) 騰落率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

■投資環境（第10期：2017年10月3日～2018年10月1日）

当期の株価は、金融危機後初めてと言える世界景気の同時拡大と、企業業績の好調を背景に、前期の流れを引き継いでハイピッチの上昇でスタートしました。しかし、2018年に入りますと、楽観ムードの反動や一部の投資商品などを巡る投資家の混乱をきっかけに2月から3月にかけてやや大きく反落しました。その後は、米国株が経済の好調と企業業績の大幅拡大を背景に上昇した一方で、欧州株は景気の減速やイタリアの財政問題などが重荷となり、また新興国では米国の利上げ継続による資金流出やトルコ問題などを機に強まった通貨安などを受けて軟調に推移しました。米国株は2ケタ上昇しましたが、日本株は期末に急上昇したものの1ケタ台後半の上昇、欧州株と新興国株はわずかな上昇にとどまり、米国一強と言ってよい1年でした。

以下、株式市場、為替市場のそれぞれについて推移をご説明します。

【株式市場の動き】

米国では、期の初めにトランプ政権の大規模法人減税が具体化しますと、米国企業の税引後利益の急拡大期待から2018年1月まで株価は急上昇しました。この明るいトーンは世界に広がり、株価は欧州、日本、新興国を含めて全面高となりました。

しかし、1月後半以降は、3月にかけていくつかの市場で高値から10%の下落となるやや大幅な反落局面となりました。この相場急変は、VIXベア型商品やリスクパリティ戦略と呼ばれる投資商品・投資戦略に資金が集まりすぎた反動と思われます。

これ自体による影響は一時的と見られましたが、波乱の根底には、米国の中央銀行にあたる連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを継続したことや、保有している債券の減額（市場に流れ込んだ資金の回収）を始めたことなど、金融政策が緩和から引き締めに転じたことが大きく影響していると考えられます。

3月には、米国トランプ政権による保護主義的な貿易政策が新たな混乱要因に浮上しました。特に中国と対立は、関税の引き上げ対象が輸入品目のほぼすべてに広がる大規模で厳しい内容となりました。交渉によって摩擦は緩和するとの期待感と、世界経済に保護貿易が悪影響をもたらすとの警戒感に市場関係者の心理は揺れ、株式市場への影響は期末まで続きました。

新興国では、米国の金利引き上げを受けた資金流出が続いたことなどから、株価は1月に高値をつけて以降、ほぼ一貫して下落する展開となりました。

【為替市場の動き】

期の前半はドルが軟調でした。これは、米国でインフレ率が予想ほど上がらず、利上げピッチが緩やかなものにとどまると見られた一方、欧州では景気回復やインフレ率の上昇で欧州中央銀行（ECB）の金融緩和策が次第に最終局面に移ると予想されたためです。

しかし、期の後半は、米国経済の相対的な堅調が目立ち、雇用情勢の逼迫とともにインフレ率が上昇して10年国債利回りも3%台に乗せるなど、ドルの魅力が盛り返しました。逆に欧州では、イタリアの財政赤字への懸念や、欧州景気の減速傾向による金融緩和の長期化予想から、ユーロ安となりました。英国ではEU離脱問題も前進が遅れ、英ポンドも軟調でした。

一方、新興国通貨は、年初まで堅調でしたが、アルゼンチン、ベネズエラ、トルコなどでの通貨安の影響を受け、年明け後は全般に軟調な推移となりました。経常赤字やインフレの進行といった為替相場にマイナスとなる要因が元々あったことが背景です。加えて、ドルの上昇によってドル建ての債務（借金）が自国通貨ベースで膨らみ、返済が一段と困難になるとの警戒感から、通貨安がさらに進む悪循環に落ち込む国も少なくありませんでした。その連想で、多くの新興国の通貨が売られる展開が続き、前期末に比べると円に対して小幅安で終わりました。

■当ファンドの運用経過と結果

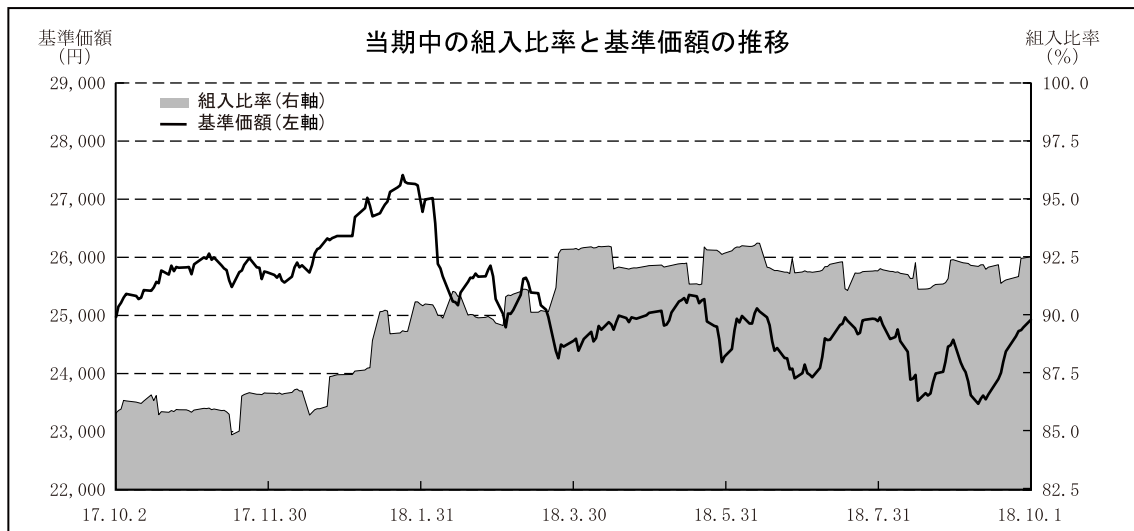
当ファンドは、世界の株価の長期的な成長を通じて基準価額の上昇を目指しています。とりわけ新興国の株式は、中長期的な経済成長と企業業績の拡大にともなって株価も上昇していくとの考え方にに基づき、当期も相対的に高めのウェイトで投資を継続しました。

当期は2018年2月以降株価が低迷したため、割安と考えられたファンドを中心に買い増しを続けました。また、2017年12月末にスパークスFの買い付けを開始し、その後の市況の下落局面を中心に買い増してきました。

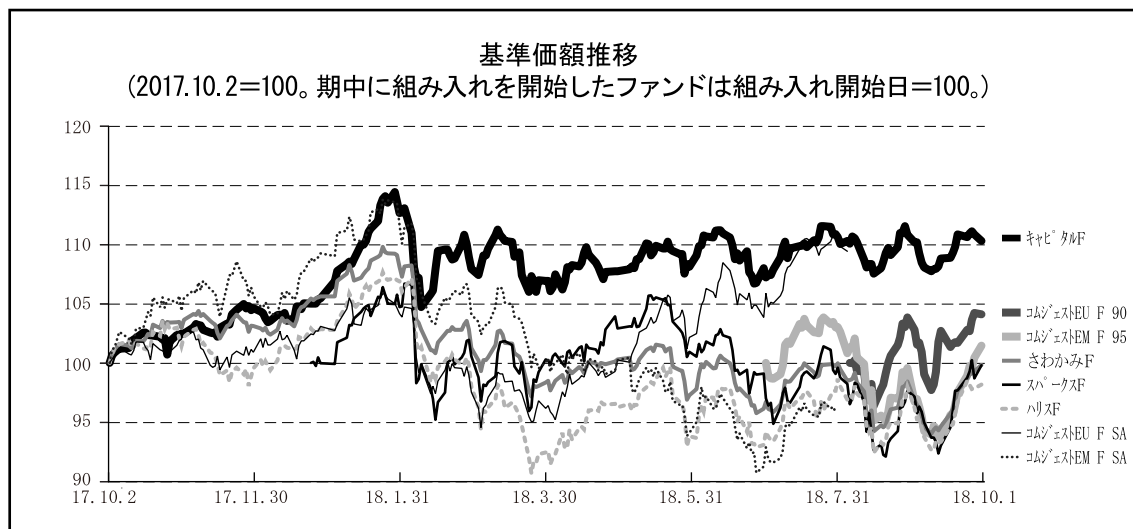
なお、コムジェストEUFとコムジェストEMFにつきましては、コムジェスト社が設定したそれぞれ同一のマザーファンドに投資するより信託報酬の低いファンドへの入れ替えを、7月と8月に実施しました。

以上の結果、全体の組入比率は期首の85.8%に対し、期末は92.5%へと高まっています。ファンド別の組入比率は、コムジェストEMF 36.4%、ハリスF 21.1%、キャピタルF 14.1%、スパークスF 7.6%、さわかみF 7.0%、コムジェストEUF 6.4%としています。

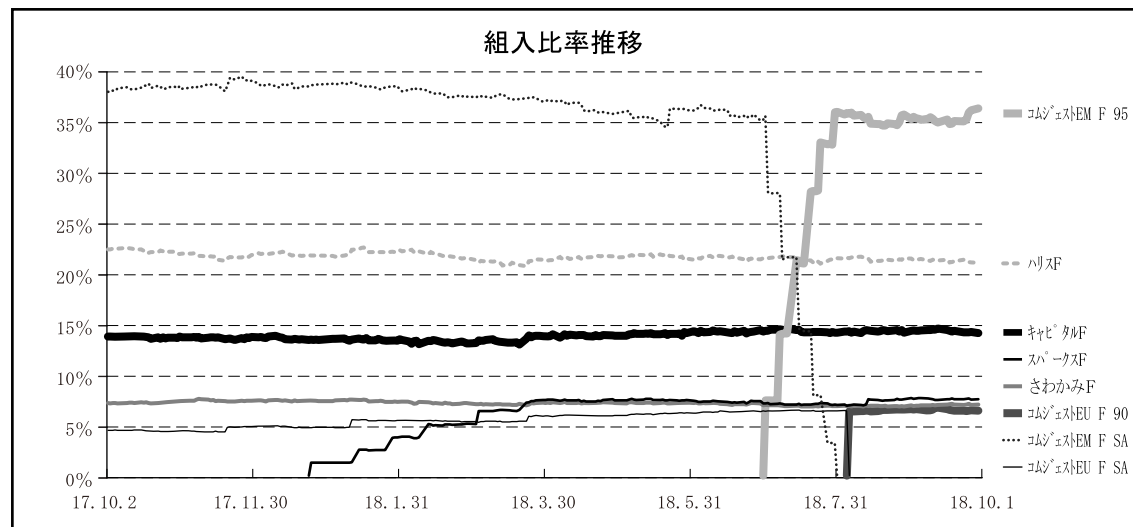
地域別には、日本株に投資するスパークスFの新規組入により、日本の比率が前期より大幅に高まりました。新興国は、コムジェストEMFの買い増しを継続したものの、他の市場に比べさえない動きに終わったことにより、組入比率はやや低下しました。割安と考えている欧州株の比率は米国株に対して高めを維持しました。



【参考情報】 当期中の組入ファンドの状況



(注) ハリスFは分配金再投資基準価額で計算しています。



■ベンチマーク

当ファンドは、比較できる適切な指数が存在しないため、運用の目標とするベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

■分配金

基準価額の水準、投資環境、運用の安定等を考慮し、当期は分配を行わないこととしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（第10期：2017年10月3日～2018年10月1日）
（1万口当たり、税込み）

項目	当期
当期分配金 (円)	—
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	14,929

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益および当期の収益以外は円未満切捨てで表示しているため、その合計が当期分配金と一致しないことがあります。

今後の運用方針

前期は米国株の堅調さが際立ちましたが、先行きについては必ずしも楽観できないと考えています。自動車に例えるなら、株価にとって好景気・好業績はアクセルで、金融引き締めはブレーキにあたりますが、現状はいわばアクセルとブレーキを両方踏み込んだ状態にあります。株価は上昇と下落を繰り返す段階に差しかかってきたと見ています。

一方、欧州と新興国は組入比率を高めには保ってまいりましたが、前期は市況が低調な動きにとどまり、期中の買い増しは必ずしも実を結びませんでした。

ただ、不調なときほど投資の好機であり、優れた企業の株価とそれを保有するファンドの価格はいつか評価し直され値上がりすると確信しております。なかでも新興国の株価は、利益水準との比較で数年来の割安圏にあると考えられます。加えて、新興国に投資しているコムジェストEMFについても、保有銘柄の利益の伸び率の高さや株価の割安度などからみて、前期の劣後が今後も長く続くことはないと考えています。

現在は市場全体を覆うマイナス材料が多く、しばらく逆風が吹き続ける可能性は少なくありませんが、いずれ世界の投資家から見直される場面がやって来ると予想しています。

今後も引き続き、より割安で一層の成長が期待できる市場に投資するファンドや、それぞれの市場で優位性を持つファンドへの投資を揺らぐことなく進めていく方針です。

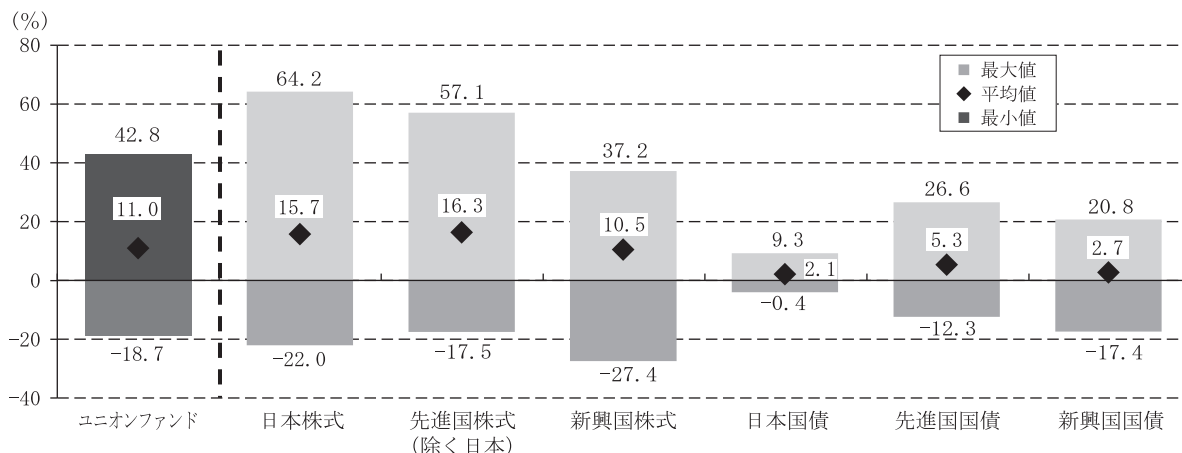
お知らせ

- ◎ 2017年12月23日付で、当ファンドの投資対象である投資信託証券に「スパークス・集中投資・日本株ファンドS〈適格機関投資家限定〉」を追加する信託約款の付表の変更を行いました。
- ◎ 2018年6月29日付で、当ファンドの投資対象である投資信託証券に「コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95（適格機関投資家限定）」および「コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90（適格機関投資家限定）」を追加する信託約款の付表の変更を行いました。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式
信 託 期 間	無期限 (信託約款所定の信託終了事由が生じた場合に償還されることがあります。)
運 用 方 針	個人家計の「資産形成」を支援する目的で、「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資をします。
主 要 投 資 対 象	主として国内外の有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	①「株式」に投資します。 ②「グローバル」な視点で投資します。 ③運用は「ファンド・オブ・ファンズ」形式で行います。 ④実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します。 ⑤株価が割高と思われるときには、現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます。
組 入 制 限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ③外貨建資産への投資には制限を設けません。 ④株式への直接投資は行いません。 ⑤デリバティブの直接利用は行いません。
分 配 方 針	毎決算時、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、投資環境や市況動向等を勘案し決定します（分配を行わないことがあります。）。 当ファンドは分配金再投資専用であるため、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。

【参考情報】当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 2013年10月～2018年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 騰落率は、当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、当期末に対応した数値とは異なります。

- 各資産クラスの指数

日本株式 : TOPIX配当込み指数

先進国株式 : MSCI Kokusai (World ex Japan) Index

新興国株式 : MSCI EM (Emerging Markets) Index

日本国債 : NOMURA-BPI国債

先進国国債 : FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし円ベース)

新興国国債 : THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY index

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ※ 他の代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しています。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。

また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

FTSE世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。

NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

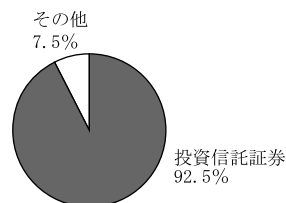
当ファンドのデータ

■組入資産の内容（第10期末：2018年10月1日現在）

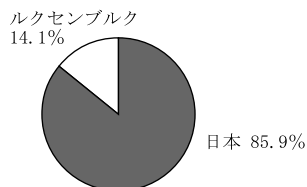
○ 組入ファンド

ファンド名	組入比率 (%)
コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド 95	36.4
ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007	21.1
キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ	14.1
スパークス・集中投資・日本株ファンドS	7.6
さわかみファンド	7.0
コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド 90	6.4

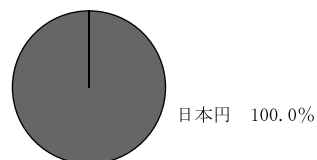
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 各組入ファンドに関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

(注3) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注4) 国別配分は、組入資産の発行国を表示しています。

■純資産等（第10期末：2018年10月1日現在）

項目	第10期末
純資産総額	6,483,912,647円
受益権総口数	2,600,920,441口
1万口当たり基準価額	24,929円

※ 第10期中における追加設定元本額は417,949,597円、同解約元本額は120,172,812円です。

■組入ファンドの概要

※ 各組入ファンドの概要は、当交付運用報告書作成時点において入手可能な直近計算期間に関する情報です。

1 《コムジェスト・エマージングマーケット・ファンド95（適格機関投資家限定）》

第1期計算期間が終了していないため、当組入ファンド自体の直近計算期間に関する情報はありません。

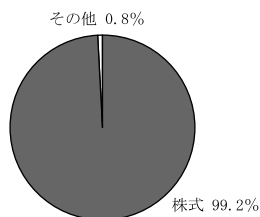
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2017年12月25日現在）

ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド

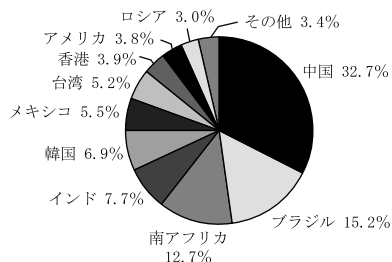
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	情報技術	台湾	米ドル	5.2
2	株式	CHINA LIFE INSURANCE CO-H	金融	中国	香港ドル	4.9
3	株式	NETEASE INC ADR	情報技術	中国	米ドル	4.6
4	株式	PING AN INSURANCE GROUP CO-H	金融	中国	香港ドル	4.5
5	株式	MTN GROUP LTD	電気通信サービス	南アフリカ	南アフリカランド	3.9
6	株式	BAIDU INC ADR	情報技術	中国	米ドル	3.5
7	株式	SAMSUNG LIFE INSURANCE CO	金融	韓国	韓国ウォン	3.5
8	株式	POWER GRID CORP OF INDIA LTD	公益事業	インド	インドルピー	3.4
9	株式	SANLAM LTD	金融	南アフリカ	南アフリカランド	3.3
10	株式	COGNIZANT TECHNOLOGY SOLUTION A ORD	情報技術	アメリカ	米ドル	3.2
				組入銘柄数		43銘柄

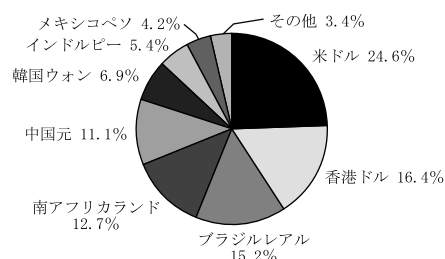
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



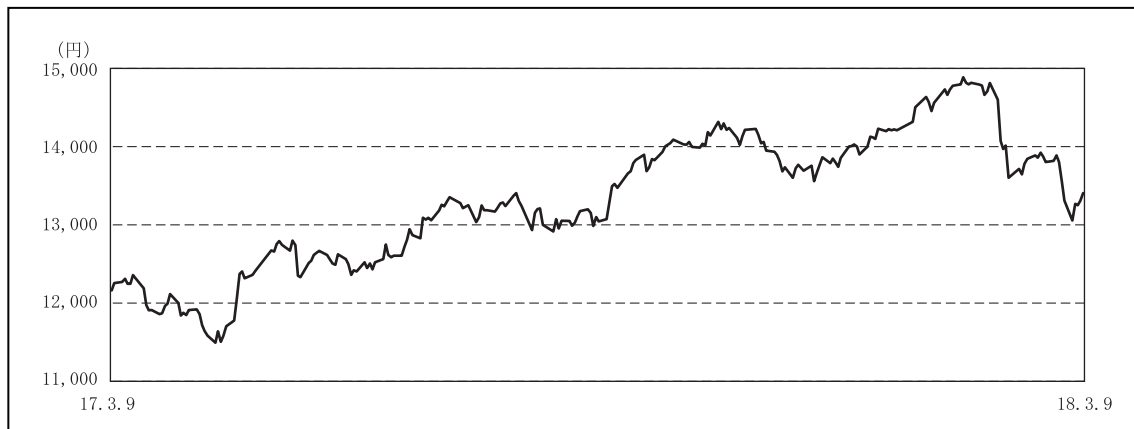
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) 資産別配分のその他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

ユニオンファンド

2 《ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007（適格機関投資家専用）》

基準価額の推移（2017年3月9日～2018年3月9日）



1 万口当たりの費用明細 (2017年 3 月 10 日～2018年 3 月 9 日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	188 (144) (32) (12)	1.404 (1.080) (0.238) (0.086)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株 式)	5 (5)	0.040 (0.040)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株 式)	3 (3)	0.023 (0.023)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	9 (8) (1) (0)	0.066 (0.059) (0.005) (0.002)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・ 資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	205	1.533	
期中の平均基準価額は、13,360円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含みます。

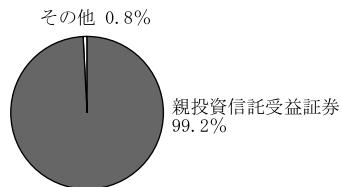
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2018年3月9日現在)

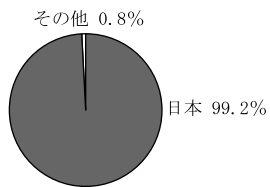
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ALAMCO ハリス グローバル バリュース 株マザーファンド	日本	日本円	99.2
組入銘柄数					1銘柄

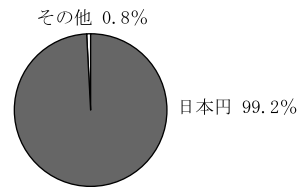
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

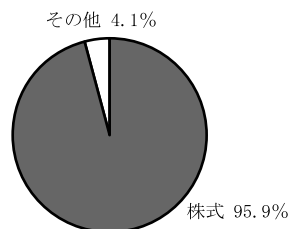
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2018年3月9日現在）

ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド

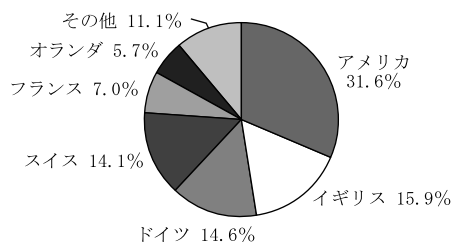
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	DAIMLER AG-REG	自動車・自動車部品	ドイツ	ユーロ	5.5
2	株式	BNP PARIBAS	銀行	フランス	ユーロ	5.3
3	株式	ALLIANZ SE	保険	ドイツ	ユーロ	5.1
4	株式	CNH INDUSTRIAL NV	資本財	オランダ	ユーロ	4.1
5	株式	CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	各種金融	スイス	スイスフラン	4.0
6	株式	GLENCORE PLC	素材	イギリス	英ポンド	4.0
7	株式	HCA HEALTHCARE INC	ヘルスケア機器・サービス	アメリカ	米ドル	3.7
8	株式	WPP GROUP PLC	メディア	イギリス	英ポンド	3.5
9	株式	ALPHABET INC-CL A	ソフトウェア・サービス	アメリカ	米ドル	3.4
10	株式	LAFARGEHOLCIM LTD	素材	スイス	スイスフラン	3.3
				組入銘柄数		38銘柄

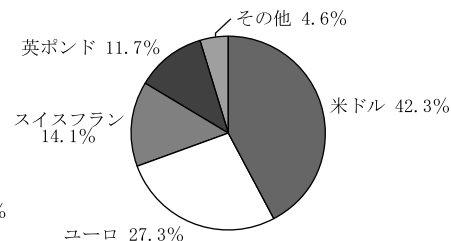
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

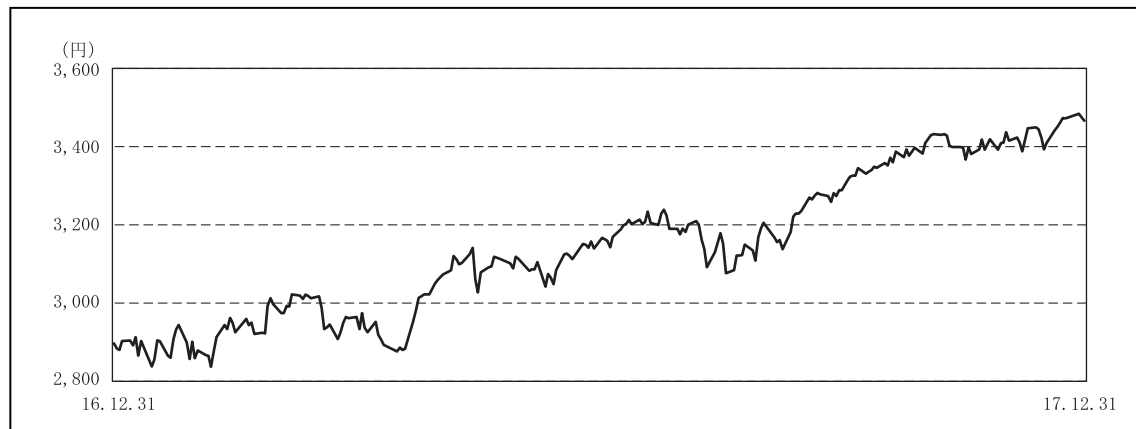
(注2) 現金、その他の資産等（負債控除後）は、その他に含めて表示しています。

(注3) 国は、ユニオン投信株式会社の判断により分類しています。

ユニオンファンド

3 《キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ》

基準価額の推移（2016年12月31日～2017年12月31日）



1 万口当たりの費用明細（2017年1月1日～2017年12月31日）

情報が取得できないため記載していません。

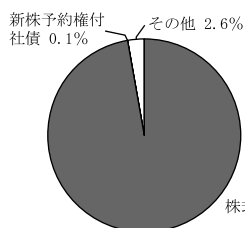
組入資産の内容 (2017年12月31日現在)

※以下の組入資産の各内容は、キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) 全体のものです。

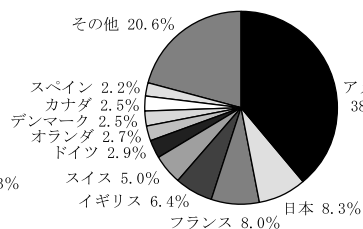
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	Alphabet, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	1.8
2	株式	Pernod Ricard SA	生活必需品	フランス	ユーロ	1.7
3	株式	ASML Holding NV	情報技術	オランダ	ユーロ、米ドル	1.7
4	株式	Airbus SE	資本財・サービス	フランス	ユーロ	1.7
5	株式	Enel SpA	公益事業	イタリア	ユーロ	1.6
6	株式	Vale SA	素材	ブラジル	ブラジルリアル、米ドル	1.5
7	株式	AIA Group Ltd.	金融	香港	香港ドル	1.4
8	株式	Nestle SA	生活必需品	スイス	スイスフラン	1.4
9	株式	Microsoft Corp.	情報技術	アメリカ	米ドル	1.4
10	株式	Deere & Co.	資本財・サービス	アメリカ	米ドル	1.4
組入銘柄数						196銘柄

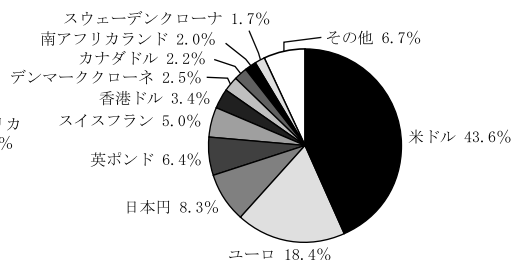
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



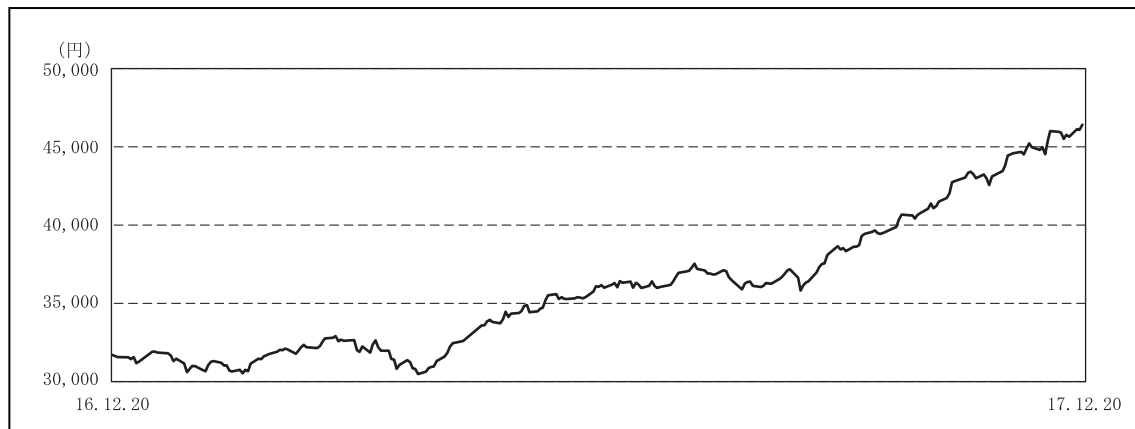
(注1) 比率は、純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) 同一会社の株式は、それぞれまとめて1銘柄として組入比率および組入銘柄数を表示しています。

(注3) 現金、その他の資産等は、その他に含めて表示しています。

4 《スパークス・集中投資・日本株ファンドS〈適格機関投資家限定〉》

基準価額の推移 (2016年12月20日～2017年12月20日)



1万口当たりの費用明細 (2016年12月21日～2017年12月20日)

項目	金額 (円)	比率 (%)
(a) 信託報酬	290	0.81
(委託会社)	(257)	(0.72)
(販売会社)	(19)	(0.05)
(受託会社)	(14)	(0.04)
(b) 売買委託手数料	24	0.07
(c) その他費用	2	0.01
合計	316	0.88
期中の平均基準価額は、35,830円です。		

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) その他費用は、監査費用です。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

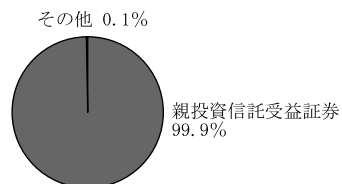
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2017年12月20日現在)

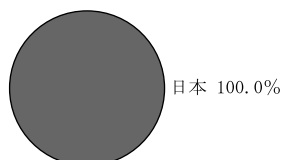
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	スパークス集中投資戦略マザーファンド	日本	日本円	99.9
組入銘柄数					1銘柄

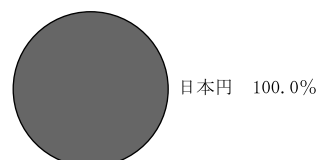
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

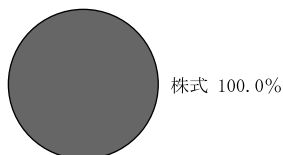
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2017年12月20日現在）

スパークス集中投資戦略マザーファンド 組入状況

○ 組入上位10銘柄

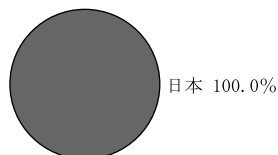
	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	MARUWA	ガラス・土石製品	日本	日本円	5.7
2	株式	三浦工業	機械	日本	日本円	5.4
3	株式	日精エー・エス・ビー機械	機械	日本	日本円	5.2
4	株式	トーセイ	不動産業	日本	日本円	5.0
5	株式	フェローテックホールディングス	電気機器	日本	日本円	4.8
6	株式	山洋電気	電気機器	日本	日本円	3.9
7	株式	プリマハム	食料品	日本	日本円	3.6
8	株式	オープンハウス	不動産業	日本	日本円	3.4
9	株式	エフピコ	化学	日本	日本円	3.3
10	株式	ビックカメラ	小売業	日本	日本円	3.3
組入銘柄数				33銘柄		

【資産別配分】



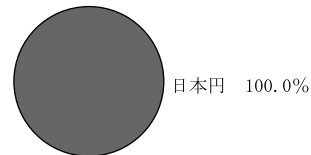
株式 100.0%

【国別配分】



日本 100.0%

【通貨別配分】



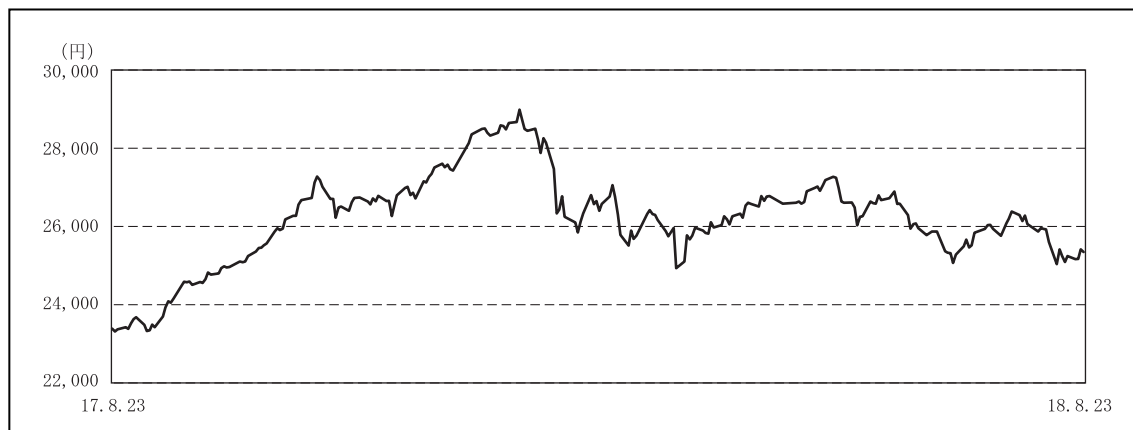
日本円 100.0%

(注1) 組入上位10銘柄の比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) 資産別配分、国別配分および通貨別配分の比率は、当親投資信託の組入有価証券の評価額の合計に対する各評価額の割合です。

5 《さわかみファンド》

基準価額の推移 (2017年8月23日～2018年8月23日)



1万口当たりの費用明細 (2017年8月24日～2018年8月23日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	283 (156) (99) (28)	1.080 (0.594) (0.378) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	1 (1)	0.004 (0.004)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 金銭信託にかかる手数料等
合計	284	1.084	
期中の平均基準価額は、26,193円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

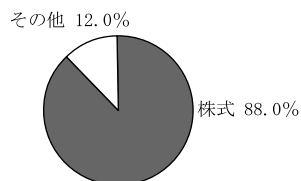
(注3) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2018年8月23日現在)

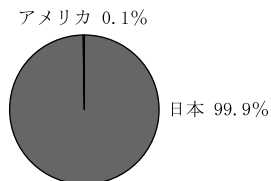
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	日本電産	電気機器	日本	日本円	5.0
2	株式	花王	化学	日本	日本円	4.0
3	株式	ブリヂストン	ゴム製品	日本	日本円	3.9
4	株式	ダイキン工業	機械	日本	日本円	3.6
5	株式	浜松ホトニクス	電気機器	日本	日本円	3.1
6	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	3.1
7	株式	信越化学工業	化学	日本	日本円	2.9
8	株式	テルモ	精密機器	日本	日本円	2.8
9	株式	国際石油開発帝石	鉱業	日本	日本円	2.7
10	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	日本	日本円	2.5
組入銘柄数				99銘柄		

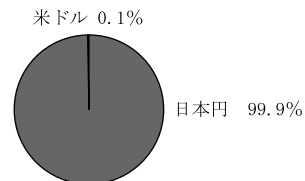
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 組入上位10銘柄および資産別配分の比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 国別配分および通貨別配分の比率は、当組入ファンドの組入有価証券の評価額の合計に対する各評価額の割合です。

(注3) その他は、現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

6 《コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド90（適格機関投資家限定）》

第1期計算期間が終了していないため、当組入ファンド自体の直近計算期間に関する情報はありません。

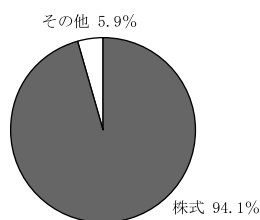
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2017年12月25日現在）

ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド

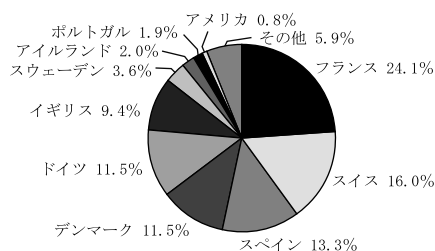
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	INDITEX	一般消費財・サービス	スペイン	ユーロ	7.1
2	株式	AMADEUS IT GROUP SA	情報技術	スペイン	ユーロ	6.2
3	株式	ESSILOR INTERNATIONAL	ヘルスケア	フランス	ユーロ	5.2
4	株式	COLOPLAST -B	ヘルスケア	デンマーク	デンマーククローネ	4.3
5	株式	SARTORIUS STEDIM BIOTECH	ヘルスケア	フランス	ユーロ	4.0
6	株式	WIRECARD AG	情報技術	ドイツ	ユーロ	3.8
7	株式	L' OREAL	生活必需品	フランス	ユーロ	3.7
8	株式	ASSA ABLOY B ORD	資本財・サービス	スウェーデン	スウェーデンクローナ	3.6
9	株式	SAP SE	情報技術	ドイツ	ユーロ	3.5
10	株式	ASSOCIATED BRITISH FOODS PLC	生活必需品	イギリス	英ポンド	3.5
組入銘柄数						35銘柄

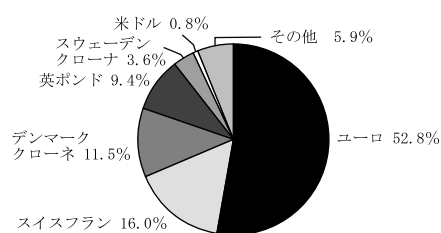
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

【参考情報】直接販売の状況

期中の新規口座開設数は293件（前期比+43件）で口座閉鎖数は63件（前期比△23件）となり、当期末（2018年10月1日）の全口座数は3,320件と前期末比で230件の純増（+7.4%）となりました。当期中に閉鎖された口座の割合は1.9%（前期比△0.9%）にとどまりました。一方、閉鎖されずに継続している割合（継続率）を見ますと、ファンド設定から当期末までに開設いただいた全ての口座で91.6%、このうち第1期（～2009年9月30日）に開設いただいた口座でも87.3%に達しており、長期でのご利用が多数を占める状況が続いております（次ページのグラフ参照）。

また、「定期定額購入サービス」のご利用は全体の76.3%にあたる2,532件（前期末比+172件、+7.3%）と引き続き高い水準を保っています。

このように長期で定期定額購入サービスを利用される比率が極めて高いことが、弊社の特徴であり、強みでもあります。

定期定額による購入額も順調に伸びてきており、ボーナス時期でもある2018年7月には8,300万円を超え、月平均でも6,539万円（前期比+14.8%）と利用者数の伸び率をも上回る増加となりました。この資金に支えられ、資金流出入につきましても、10億5,522万円の資金流入（買付）に対して資金流出（解約）は3億263万円となり、7億5,259万円（前期比+53.5%）も流入が上回りました。月次ベースでみましても、全ての月で流入額が上回り、2014年1月以降57ヶ月連続で純流入が継続しています。

ユニオンファンドの純資産総額は、市況の堅調により基準価額が過去最高の27,421円を記録した1月24日には、65億5454万円まで増加しました。その直後の2月には、世界的な株式市場の大幅下落に伴いユニオンファンドの基準価額も大きく下落しましたが、多くの方からスポット購入が入り、単月で1億円を超える純流入となりました。以降も基準価額は軟調に推移し、当期末の基準価額は最高値から△9.1%、前期末とほぼ同水準の24,929円で終えましたが、当期末の純資産総額は△1.1%（△7,063万円）、前期末比で+12.7%（+7億3,270万円）の64億8,391万円となっています。

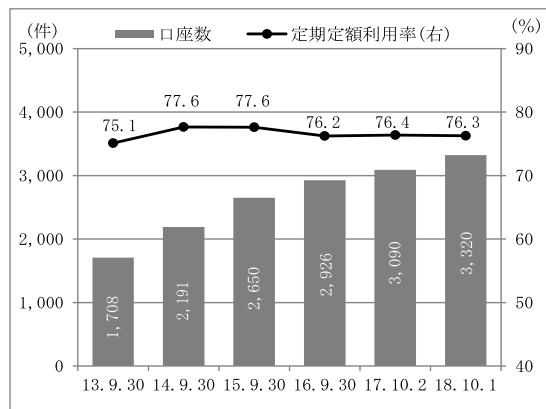
弊社は、主にセミナーや個別相談等のFace to Faceの活動を中心に、「生涯投資」・「グローバル投資」・「つみたて投資」の有効性や魅力、そしてこれからの明るい未来のために自らの意志で自らのお金を世の中に活かすことの大切さをご説明しております。弊社の経営理念や運用哲学にご賛同いただいた多くの皆様が定期定額購入を継続し、下げ相場ではスポット購入をされていることが、ユニオンファンドの純資産総額の継続的拡大と、安定感のあるファンド運用をもたらしています。

弊社は、働く仲間とその家族の方々の財産づくりのお手伝いをさせていただくべく設立された資産運用会社です。皆様一人ひとりの投資行動によりユニオンファンドが成長し、その結果として皆様それぞれの自分らしい人生を過ごすための生涯資産づくりに活かされていくというWin-Winの関係を築くことができるのであれば、これほど幸せなことはありません。

これからも、ユニオンファンドは、皆様の“生涯投資の道”の頼もしいパートナーであるべく、丁寧に丁寧に運用して参る所存です。

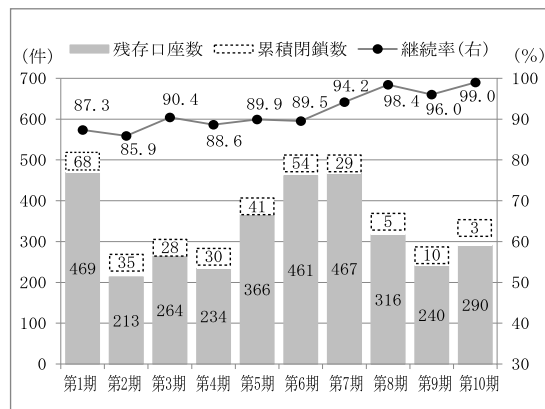
（注）各金額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。

各期末現在の残存口座数および定期定期額購入利用率



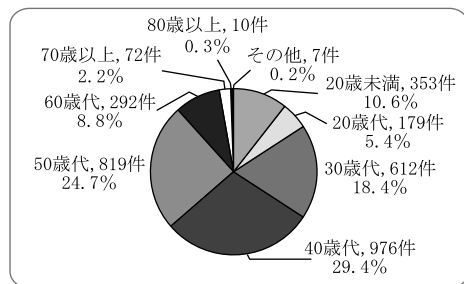
(注) 利用率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

決算期別口座開設数および継続率 (2018年10月1日現在)



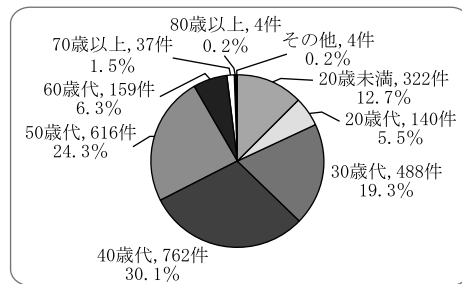
(注) 継続率は、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別口座数 (2018年10月1日現在)



(注) 比率は、全口座数に対する各年代の口座数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定期額購入利用者数 (2018年10月1日現在)



(注) 比率は、全利用者数に対する各年代の利用者数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定期額購入1回当たりの平均引落額 (2018年10月1日現在)

年代別引落額平均 (月次) (単位: 円)			
20歳未満	10,512	50歳代	34,492
20歳代	19,532	60歳代	32,746
30歳代	24,859	70歳代	34,036
40歳代	27,358	80歳以上	102,500

(注) 1回当たりの平均引落額は、次の式で算出し、円未満切捨てで表示しています。

(当該年代の毎月の契約金額の合計×12+当該年代の増額月の契約金額の合計) ÷ 12 ÷ 当該年代の利用者数